

旧海軍大社基地主滑走路跡現地説明会



令和 7 年 7 月 19 日（土）

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

Tel:0852-36-8608

島根県教育庁埋蔵文化財調査センターでは、旧海軍大社基地主滑走路跡を調査しています。旧海軍大社基地跡は戦争末期の昭和 20（1945）年 3 月から 6 月にかけて建設されました。今回の調査は滑走路東端部の様相解明を目的としており、このたび新たに遺構が確認されたので、調査成果を公開します。

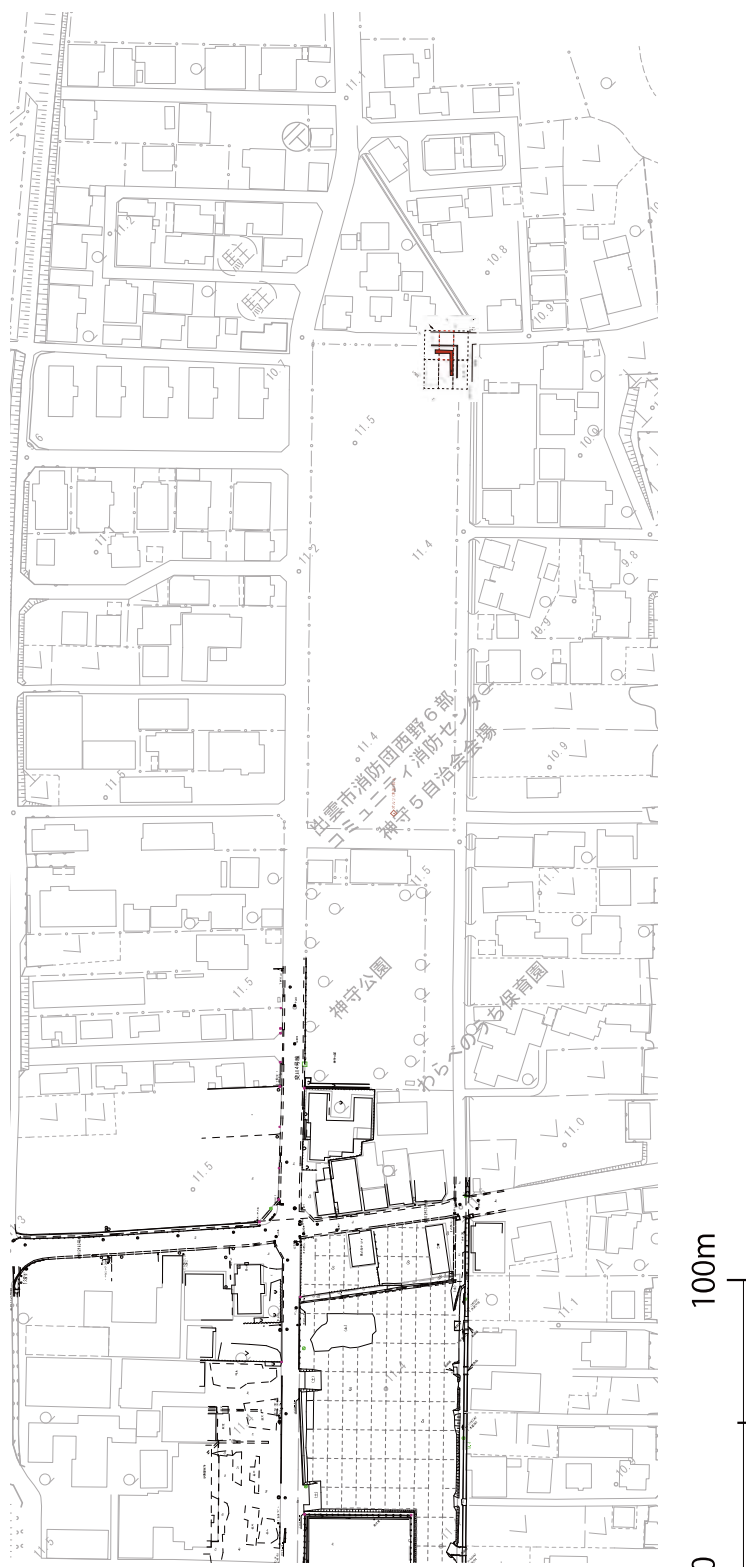
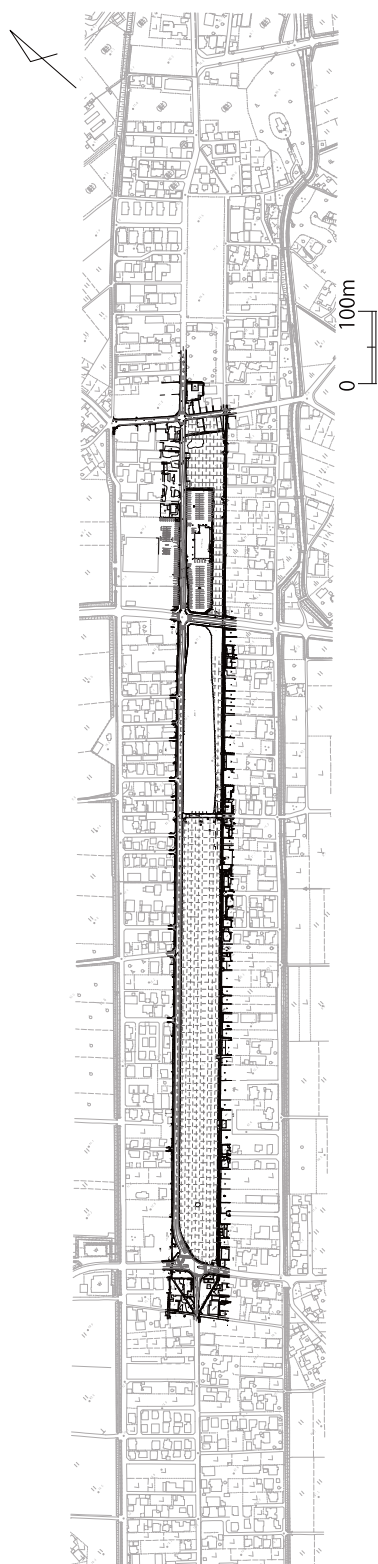
(1) 主な調査成果

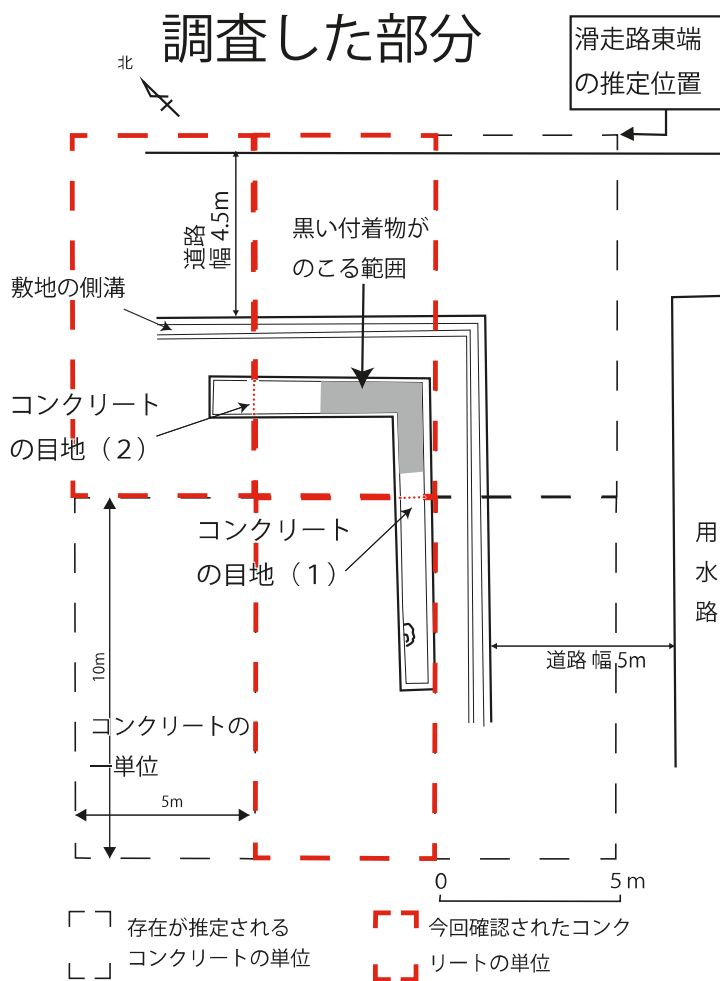
- ① 滑走路跡のコンクリート舗装面の一部を確認しました。
- ② コンクリート舗装面上で目地（コンクリートを打つ時に設置した型枠の単位ごとに生じる切れ目）を確認しました。
- ③ 目地の通っている位置から、コンクリート舗装面の東端位置が推定可能になりました。
- ④ コンクリート舗装面上では、これまでの調査で確認されていない黒色の付着物を確認しました。

(2) 調査の意義

- ① これまでの調査で、コンクリート型枠の単位は 5 m × 10 m であることがわかっていました。今回検出した目地は最も東端のものとみられ、主滑走路跡の東端の位置が推定可能となりました。
- ② 黒色の付着物は、アメリカ軍が 1947 年撮影した航空写真に写ったものと同一と考えられます。当時の主滑走路の管理状況を示す資料である可能性があり、サンプルを採取して成分を分析中です。







コンクリートの目地 (2)



滑走路の東部にだけみられる黒い物体
(1947 年 米軍撮影 USA-R514-4-48)



コンクリートの目地 (1)